

# 子どもたちの「生きる力」を育むために ～将来に向けた学校のあり方に対する基本指針～

市では、未来を担う子どもたちに良好な教育環境を提供するため、市内小中学校の今後のあり方についての基本方針となる「将来に向けた学校のあり方に対する基本指針」を、令和4年3月に策定しました。

※基本指針の全文は、市ホームページに掲載しています。



## 今後の方針

保護者及び地域の方々と協議を行い、学校再編を進めていくこととします。

## 学校再編の必要性

### I 子どもたちの「生きる力」の育成

- 市では、「確かな学力」・「豊かな心」・「健やかな体」を基盤とした『生きる力』の育成を、学校教育の最重点課題としています。
- 『生きる力』とは、知識・技術の習得に加え、思考力・判断力・表現力の向上、豊かな心と健やかな体の育成により育まれます。各学校では、子どもたち一人ひとりの個性や可能性を伸ばすと共に、多様な他者との関わり合いの場としての役割が必要とされています。
- 教育が直面する課題点として、教員の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、人口減少による学校教育の維持とその質の保証に向けた取組が必要とされています。国が進める小学校高学年の「教科担任制」の推進においても、小規模校では専門的な指導を行う教員の確保について課題点があります。

- 急激な少子化の進行で学校規模が小規模化し、多様な他者との関わり合いの場面が減少しています。今後、複数の学年で構成される複式学級を編制する学校の増加が予測されます。小規模校や複式学級では、運動会や合唱など集団での学習・活動に制約が生じるなどの課題があります。

□ 学校別 児童生徒数の推移・予測値 (単位：人) ※ \*印…複式学級

中学校					小学校				
学校名	実績値←	→推計値			学校名	実績値←	→推計値		
	平成元年度	令和3年度	令和9年度	令和20年度	学校名	平成元年度	令和3年度	令和9年度	令和20年度
第一中	498	185	158	96	船形小	320	105	60	50*
第二中	919				那古小	488	217	166	137
第三中	961				北条小	1,092	694	465	383
館山中		710	636	480	館山小	1,058	381	351	289
房南中	218	69	58	25	西岬小	221	54	46*	38*
合計	2,596	964	852	601	神戸小	240			
平成元年度比	—	-62.9%	-67.2%	-76.9%	富崎小	110			
					合計	4,150	1,857	1,402	1,155
					平成元年度比	—	-55.3%	-66.2%	-72.2%

□ 令和9年度 学校別 児童生徒数の予測値 ※令和9年度…令和2年度に市内で生まれた子どもが小学校1年生になる年度

学校名	学年児童生徒数(単位：人) / クラス数(丸囲み)						合計
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
第一中	54 / ②	47 / ②	57 / ②				158 / ⑥
館山中	198 / ⑤	199 / ⑤	239 / ⑥				636 / ⑩
房南中	17 / ①	22 / ①	19 / ①				58 / ③
中学校計	269	268	315				852
船形小	11 / ①	11 / ①	7 / 複式	9 / 複式	10 / ①	12 / ①	60 / ⑤
那古小	19 / ①	27 / ①	30 / ①	32 / ①	26 / ①	32 / ①	166 / ⑥
北条小	71 / ③	74 / ③	80 / ③	77 / ③	78 / ③	85 / ③	465 / ⑱
館山小	57 / ②	61 / ②	51 / ②	63 / ②	57 / ②	62 / ②	351 / ⑫
西岬小	9 / ① *1	3 / 複式	6 / 複式	10 / 複式	12 / ①	6 / ①	46 / ⑤
房南小	8 / ① *2	10 / ① *2	9 / ① *2	11 / ① *2	6 / ① *2	22 / ①	66 / ⑥
豊房小	9 / ① *1	5 / 複式	8 / 複式	8 / 複式	6 / 複式	9 / 複式	45 / ④
神余小	2 / 複式	1 / 複式	0 / 複式	1 / 複式	2 / 複式	1 / 複式	7 / ③
館野小	22 / ①	14 / ①	27 / ①	22 / ①	32 / ①	30 / ①	147 / ⑥
九重小	8 / ① *1	6 / 複式	10 / 複式	7 / 複式	9 / 複式	9 / ① *2	49 / ④
小学校計	216	212	228	240	238	268	1,402

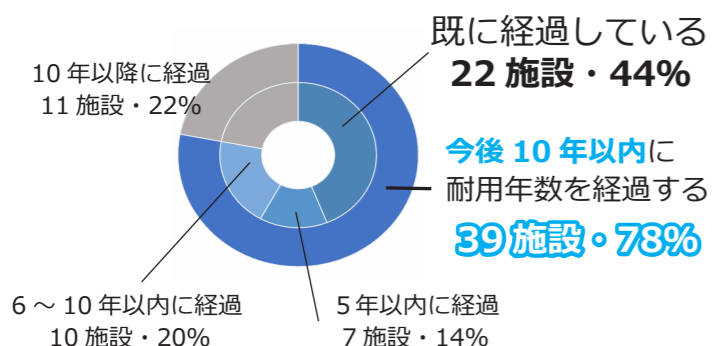
※ \*1…2年生以降に複式学級編制になる。  
※ \*2…特別支援学級に在籍する児童がいる場合、複式学級を編制する可能性が高い。



## 安全安心で豊かな教育環境の提供

- 多様化する社会の中、学校現場では、正規の教職員以外に、特別支援教育学習支援員やスクールカウンセラー、学力向上推進コーディネーターなど様々な人材の配置を行っています。子どもの安全を確保するため、これまで以上に通学路の安全対策も必要とされています。
- 子どもたちが今以上に「安全安心で豊かな学校生活を送ることができる環境を整える」ためにもハードとソフトの両面から、**限られた予算の『効果的な投資』**をしていく必要があります。
- 市の学校施設は、高度経済成長期から第二次ベビーブームの昭和 40~50 年代にかけて集中的に整備されており、今後、施設の建替や長寿命化改修に多額の費用を要する状況となっています。

### 法定耐用年数の経過状況



### 今後 10 年以内に耐用年数が経過する学校施設の整備費用

種別	校舎	体育館・武道場	プール
建替え	119.5 億円	17.7 億円	16.5 億円
長寿命化改修	71.7 億円	10.6 億円	
大規模改修	29.9 億円	3.9 億円	3.2 億円

## 基本指針策定までの経緯

### 『館山市学校再編調査検討委員会』における調査・検討の実施

(審議内容) 平成 30 年度~令和 3 年度 **12 回開催**

- ・現状の教育環境の分析
- ・各学校規模別の学校現場視察
- ・大小の規模校で勤務経験のある元教員からのヒアリング
- ・館山市における学校の適正規模に関する協議
- ・学校再編をする上での配慮事項、今後の進め方に関する協議
- ・パブリックコメント(令和 3 年度実施)の結果に関する協議

### (委員構成)

学識経験者	3 人	元教育委員 学校評議員 等
市議会議員	2 人	
PTA 関係者	6 人	各中学校区 PTA 元小中学校 PTA 会長
教育関係者	2 人	元教員
一般市民公募	2 人	
合計	15 人	

### 「館山市学校再編調査検討委員会から市教育委員会への答申/概要」

- 児童生徒の減少による学校の小規模化が進行しており、学校再編を行い教育環境の充実を図るべき。
  - ・効果的な教育活動が最低限確保できる人数は、小学校で1学年15人、中学校では1学年30人と考える。
  - ・小規模校のメリットとされる事項は、創意工夫で再編後の学校に取り入れることも可能。
- 市教育委員会は、この答申を踏まえ、学校再編の具体的なスケジュールを市民に示し、着実に実行することを要望する。



## 今後の取組方法

### 基本方針

1. 児童生徒数の急激な減少や学校施設の老朽化状況など、学校運営を取り巻く現状を、「市全体の課題」として、市民の皆様へ情報提供を行い、学校再編への理解を深めてもらう。
2. 市内 10 カ所の小学校区単位で、保護者やこれから市立小中学校へ子どもを通学させる予定の保護者の方々、地域住民の皆様との協議を行い、各地区での学校再編に関する意見集約を行う。
3. 中学校及び小学校に隣接する幼稚園やこども園の再編についても、各施設の在り方についての意見交換を行う。
4. 各地区単位で出された意見をもとに、市と外部諮問機関である「館山市学校再編調査検討委員会」において、再編内容や時期など具体的な事項を盛り込んだ『館山市立小中学校再編計画』を策定する。

### スケジュール

時期	取組方法
令和 4 年 6 ~ 7 月	市内 10 小学校区で説明会実施 ・保護者、住民の皆様へ基本方針の概要説明 ・今後の協議方法についての意見交換
令和 4 年 10 月~令和 6 年 9 月 (最大 2 年間目安)	市内 10 小学校区で学校再編に関する協議 ・各地区単位で再編に関する意見集約
令和 6 年度末まで	小中学校の再編計画の決定 ・具体的な再編内容や時期などの計画策定 ・各地区での協議結果を踏まえ、市及び学校再編調査検討委員会(外部諮問機関)で決定





## 学校再編にあたり配慮すべき事項

### 1. 通学上の安全配慮

スクールバス運行規定などの見直しを行い、児童生徒の負担や安全面を考慮し、通学時間が1時間以内となる通学手段を確保します。

### 2. 環境変化への対応

学校再編により学校規模が拡大することに伴い児童生徒の学習環境や生活環境、教職員との関係などが大きく変化するため、新たな生活に戸惑いが生じることが少なくなるように、再編予定学校同士の事前交流などの配慮を行います。

### 3. 地域との関係の希薄化への対応、地域の拠点施設の継承

「再編後の学校が関わる地域が広がること」をメリットとしてとらえ、再編対象地区で実施していた教育資源を活用するなど、それらをいかす取組を行います。

各学校は、防災拠点としての役割や、地域における文化・スポーツの活動拠点など、地域コミュニティの中心施設としての機能を有しています。再編後の学校施設について、地域住民の皆様とともに利活用方策の検討を行います。

## 各地区説明会の開催日程

日付	時間	小学校区	場所
6/23 (木)	19:00 ~ 20:30	北条	北条小体育館
6/24 (金)	19:00 ~ 20:30	館山	館山小体育館
6/25 (土)	19:00 ~ 20:30	九重	九重小体育館
6/26 (日)	14:00 ~ 15:30	館野	館野小体育館
6/28 (火)	19:00 ~ 20:30	豊房	豊房小体育館
6/30 (木)	19:00 ~ 20:30	西岬	西岬小体育館
7/1 (金)	19:00 ~ 20:30	神余	神余小学校 ランチルーム
7/3 (日)	14:00 ~ 15:30	房南 (神戸・富崎)	房南学園体育館
7/5 (火)	19:00 ~ 20:30	船形	船形小体育館
7/6 (水)	19:00 ~ 20:30	那古	那古小体育館

※お住いの地区での参加が出来ない場合、他の地区説明会に出席することも可能です。

※新型コロナウイルス感染症対策のため、必ず自宅で検温を行い参加してください。

※事前申し込み等は不要です。履物を持参してください。

### 教育総務課

(☎ 22 - 3694)

kyousoumu@city.tateyama.chiba.jp



## 令和3年度 市民協働まちづくり 支援事業結果

問合せ/市民協働課 (☎ 22 - 3142)

昨年度、市民協働事業補助金の交付対象事業として市が選定した3団体の実施結果を紹介します。



ビーチクリーンを効果的に行う方法の実証確認

◆事業概要/  
大量ゴミや巨大漂着物を、重機やビーチクリナーの導入により、効果的かつ強力に清掃を行う。

◆事業の効果等/  
▶海岸美化に関心を持つ市民が増えた。  
▶重機作業が効果的で、年数回実施すべきとわかった。  
▶県、市、ボランティアが協力して環境美化を進める第一歩となった。

◆団体名/たてやまビーチクリーンボランティアネットワーク

◆コース/チャレンジコース (新規事業)

◆補助額/20万円



富崎地区スローモビリティ実証運行

◆事業概要/  
移動困難な高齢者が快適に安心して暮らせるよう、集落内をゆっくり巡回し、運転者が困りごとも手を貸してくれる乗り物を走らせる。

◆事業の効果等/  
▶地域内コミュニケーションが向上した。  
▶防犯効果により、地域安全が向上した。  
▶買い物に行くための交通手段があることで生活不安が解消された。

◆団体名/公共交通/便利な乗り物を考える会

◆コース/チャレンジコース (新規事業)

◆補助額/20万円



神余地区ハイキングコース整備による滞留客の集客

◆事業概要/  
神余地区にハイキングコースを新設し、拠点施設も整備することで、訪問客の滞留時間を増やし地域活性化につなげる。

◆事業の効果等/  
▶地元小学生の行事で利用した。  
▶SNS等での発信により、ハイキングコース利用観光客が増大した。  
▶市内外からの整備参加メンバー間での交流が促進した。

◆団体名/神余の里を豊かにする会

◆コース/チャレンジコース (新規事業)

◆補助額/20万円